

1 題材名 ハ長調の音階を使ってまとまりのある旋律をつくろう

2 本題材の目標

- (1) 音階や音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) リズム、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 和音の響きと旋律の関係や音のつながり方の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、音楽表現を創意工夫することに親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

3 本題材で扱う学習指導要領の内容

第2学年及び第3学年 A表現 (3) 創作

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。

(ア) 音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴

ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。

〔共通事項〕 (1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「和音」、「旋律」、「構成」)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知 音階や音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。	思 リズム、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	態 和音の響きと旋律の関係や音のつながり方の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。
②技 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。		

5 題材について

(1) 題材観

本題材では、ハ長調の音階の特徴や音のつながり方の特徴を表したいイメージと関わらせて理解し、その知識を生かしながらまとまりのある創作表現を創意工夫する力を育成することをねらいとする。

本題材においては、ポピュラー音楽にも多用されるカノン進行から、ハ長調の音階の構成音や和音の移り変わりによる特徴を理解できるようにし、スモールステップで創作課題を示すことにより、表したいイメージと関わらせながら、まとまりのある旋律を創作することができるようにする。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、歌唱や鑑賞など、どの分野の音楽活動にも意欲的に取り組んでいる。一方で、事前アンケートの「旋律を作って表現すること(創作)ができますか。」の問いに対して、多くの生徒が「いいえ」と答えている。その理由として、「楽譜をつくったことがない」、「やってみたいけれど難しそ

う」などの意見が挙げられた。

「創作の授業についてのアンケート」（令和4年*月*日 第3学年*任実施）

質 問	はい	いいえ
(1) 旋律を作って表現すること（創作）ができますか。	*%	*%
(2) I C T機器を使って創作活動をしたことがありますか。	*%	*%
(3) タブレット端末を使うことにより、授業が分かりやすくなると感じる。	*%	*%

(3) 指導観

生徒の実態を踏まえ、本題材の指導においては、スモールステップを意識した手立てにより、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。本校ではI C T機器を使った授業研修が積極的に行われており、生徒はタブレット端末を文房具のように使いこなしている。事前アンケートの「I C T機器を使うことにより、授業が分かりやすくなると感じますか」の問いには、多くの生徒が肯定的な回答をしている。そこで、タブレット上で直感的に操作しながら旋律をつくることのできるアプリを活用し、旋律を考える。そして、タブレットに記録されたものを五線譜に書き写して楽譜を作成する。また、はじめに「もとの旋律」を考え、それに工夫を加えながら自分のイメージする旋律を完成させる。

6 題材の指導計画（4時間扱い）

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次 時	学習内容・活動	知	技	思	態	評価及び評価方法等
1 1	- 本題材の学習の見通しをもつ。 ハ長調の音階を使ってまとまりのある旋律をつくろう。 - 本時の学習課題を確認する。 音楽をつくるポイントは何だろう。 - 複数の曲を聴き、共通点を見付ける。 ・メロディーと伴奏がある ・コード進行が似ている - 和音進行（カノン進行）に着目して雰囲気を感じ取る。 ・曲が違ってても、雰囲気が似ている ・同じカノン進行でも、旋律によって雰囲気に違いが生まれる - 音楽をつくるポイントを考える。 和音の動きに合わせて、音のつながり方を工夫して旋律をつくるとよい。同じ和音進行でも、旋律が変わると、違う音楽になる。	○			○	態：本題材の学習に見通しがもてない生徒には、生徒にとって親しみのある曲を教師が範奏して例示することで、和音進行による響きの特徴に関心をもてるように支援する。 【観察、ワークシート】 ・提示する本題材で用いる和音伴奏と同じカノン形式の曲を提示することで、本題材での創作活動への見通しをもてるようにする。 ①知：音階や音のつながり方の特徴を捉えているかを見取る。つまり知っている生徒には、音楽ソフトを用いて音の動きを視覚的に捉えられるようにしたり、教師が特徴的な部分を演奏で示したりすることで、特徴に気付くことができるようにする。 【ワークシート、発言】
2 2	- 和音の響きの移り変わりを感じ取りながら「もとの旋律」をつくろう。 - 本時の「創作課題」を確認する。 ・和音伴奏を選ぶ ・4分の4拍子で8小節 ・和音の動きに合う音で旋律にする ・本時は二分音符を中心につくる					・スモールステップで創作活動に取り組めるように、本時の創作時の課題や条件を「創作課題」として提示する。

	・2種類の伴奏から自分がつくりたい音楽のイメージに近い伴奏を選ぶ。 ・和音と低音を繰り返し確認し、和音の響きの移り変わりやハ長調の調性の雰囲気を感じ取る。 ・タブレット端末の音楽制作アプリで、試奏を繰り返しながら、二分音符のみで「もとの旋律」をつくる。 ・完成した「もとの旋律」を、ワークシートに記録する。 ・「もとの旋律」を友達と相互発表し、イメージした雰囲気が伝わる旋律になっているかを確認め合う。 和音の中の音を使うと、和音の雰囲気に合う旋律ができる。同じ伴奏を使っても、音の選び方が違くと、違う雰囲気の旋律ができる。	○	思：どのような旋律をつくりたいかをイメージできない生徒には、音を出して試しながら表したい雰囲気を考えるよう助言する。【観察】 ②技：「もとの旋律」をつくるのが難しい生徒には、課題の条件に沿った音の選択や組合せができるよう、ワークシートの和音に含まれる音で音程が近いものを組み合わせるよう助言する。【観察、ワークシート】 ・鑑賞の視点を板書し、友人の作品鑑賞からの気づきを各自の創作活動に生かすことができるようにする。 ①知：【観察、ワークシート】
2	目標：音のつながり方を工夫し、ハ長調の音階を使ってまとまりのある旋律をつくる。 音のつながり方を工夫しながら、「もとの旋律」のリズムや音を変えて、まとまりのある旋律を完成させよう。 1 本時の「創作課題」を確認する。 ・音のつながり方を工夫する ・リズムを工夫する ・反復や変化など、構成を工夫する 2 「もとの旋律」に工夫を加えてまとまりのある旋律を完成させる。 ・自分がつくりたい音楽のイメージを確認する。 ・タブレット端末の音楽制作アプリで旋律をつくる。 ・同じ種類の伴奏を選んだ生徒同士で聴き合い、意見交換する。 ・自分のイメージした作品になるように修正する。 ・完成した旋律をワークシートに記録する。 3 本時の振り返りをする。 (例) 弾むような軽やかな雰囲気の曲にしたかったので、細かいリズムで、音が跳躍するように工夫した。隣り合う音で旋律をつくると、落ち着いた雰囲気になる。	○	
3 本時		○	・本時の「創作課題」を全体で確認し、前時に考えた「もとの旋律」に工夫を加えることでまとまりのある旋律を完成させることを伝える。 ・必要に応じて「もとの旋律」をつくる際に選んだ音を変更したり、和音の構成音以外も加えたりしてよいことを伝える。 思：【観察、ワークシート】

34	創作した「ハ長調の音階を使ったまとまりのある旋律」の発表会をしよう - 鑑賞の視点を確認する。 ①音のつながり方（旋律） ②音のつながり方（リズム） ③曲の構成 ④感想やアドバイス - 発表会をする。 ・モニターで工夫点、作品（楽譜）を確認しながら、演奏を聴く。 ・鑑賞して気付いたこと。感じた事をタブレット端末で共有する。 - 題材全体の振り返りをする。 （例）和音の移り変わりに着目し、音楽の決まりを守ることで、「ハ長調の音階を使ったまとまりのある旋律」をつくることができた。	◎	◎	・視点をもって鑑賞できるように、聴く視点を明確に示す。 ②技：【観察、作品、ワークシート】 態：【観察、ワークシート】
----	---	--	--	---